

第2回中国国際輸入博覧会に初出展！

洲澤 輝

<約50万人のバイヤーが来場>

第2回「中国国際輸入博覧会」(CIIE)が11月5日から11月10日まで上海市の国家会展中心で開催されました。2018年の前回同様、習近平国家主席が基調講演を行い、世界各国へ向けて中国市場をアピールし、さらなる輸入拡大への意欲を示しました。

開催事務局によると、合計181カ国・地域・国際組織から3,800を超える企業・団体が出展し、累計来場者は91万人を超え、このうちバイヤーは約50万人であることが発表されました。成約見込額は711億3,000万ドルと、前回に比べ133億ドルも増加しています。

日本からは371企業・団体が出展し、前回に続いて国・地域別で最多となりました。出展面積では、米国に次いで2位でした。

日本貿易振興機構(以下JETRO)は医療機器・医薬保健分野の50社・団体、食品・農水産分野の108社・団体を取りまとめて、ジャパンパビリオンを設置し出展しました。

JETROによると、ジャパンパビリオンの成約見込額及び覚書締結額を含む合計成約金額は医療機器・医薬保健分野で72億2千万円、食品・農水産分野で76億9千万円でした。前回の成約金額は58億円で、成約金額が大幅に伸びており、改めて中国国際輸入博覧会の規模の大きさ、そして日本商品の人気度が伺えます。

<農林水産・食品分野に初出展>

ひろしま産業振興機構は、広島県の受託事業として、今回初めて中国国際輸入博覧会に出展しました。出展エリアはJETROが取り纏める食品・農水産分野でのジャパンパビリオンで、広島県内より8社からの出展となりました。前述のとおり、全体で108社・団体の出展は、JETROが中国本土で実施する同分野の海外見本市において過去最大規模になったということです。

博覧会期間中は、初日から最終日まで、とにかく来場者の多さに驚かされました。私たちブーススタッフは、広島東洋カーブの赤いユニフォームを着用し、統一感を演出し、広島県観光ポスターも多く掲示することで来場者の目を引く工夫をしました。また、来場者への記念品にと準備した厳島神社の大鳥居がデザインされた「しゃもじ」や「絵葉書」は大人気でした。

ジャパンパビリオンの一角には、来場バイヤー等に試食を提供する「試食ブース」が設置されており、当機構からも広島県内企業の食品を試食ブースにて調理・提供し、試食して頂きました。中には「すぐに売って欲しい」など、購入希望のバイヤーもいました。

こうした経験を踏まえ、ブースに並べていた各商品もパッケージから出して、紙皿や食品包装ラップ、透明カップなどを活用して、中身が何であるか、どのように食すのかを知ってもらう工夫をしました。

また、バイヤーとの商談につながる「WeChat(微信)」の連絡先の交換も積極的に行いました。

初出展で手探りではありましたが、今回の博覧会期間中に当機構が来場バイヤーと商談した件数は350件にも及びます。バイヤーは、上海はもとより、北京や青島、成都、広州、大連、深圳など中国国内各地から来場されていました。業種も貿易会社を始め、ショッピングセンターやスーパーマーケット、越境EC運営会社、物流会社、中国政府機関など様々な業種の方が来られ、これから中国全土に販路を広げるために必要なネットワークの構築や中国の社会インフラとして多用されているSNS「WeChat(微信)」の公式アカウントのフォロワー獲得にも繋げることができました。

引き続き、今回ご縁をいただいたバイヤーの皆様と連絡を密に取りながら、出展企業と現地バイヤー双方のニーズを把握することにより、効果的な販路拡大に繋げ、広島県のさらなる経済成長の実現を目指します。



【中国国際輸入博覧会場での出展状況】